

先進工学部 情報メディア工学科

授業番号	I 1	   
題 目	画像認識ってどんな技術?	
担 当 者	新井 啓之	
授業概要	<p>人は目で見たモノが何であるのかを理解することができます。これをカメラとコンピュータを使って行おうとするのが画像認識と呼ばれる技術です。近年、画像認識技術は、顔や指紋による個人認証、車の自動運転、自分で考えて行動するロボットなどなど、様々な分野で利用されつつあります。</p> <p>この授業では、普段皆さんがどのようにしてモノを見ているのか、を考えながら、画像認識の中身がどうなっているのかと一緒に見ていきたいと思います。</p>	
授業番号	I 2	
題 目	動画のしくみ	
担 当 者	石原 次郎	
授業概要	<p>私たちが毎日みているテレビやインターネットのストリーミング映像は、どのような仕組みで動いているように見えるのでしょうか。昔の人たちは絵を描き、写真を撮り、それら静止画を何とかして動かそうと苦心してきました。どれほど「動くこと」に憧れて、さまざまな道具を作ってきたのでしょう。この授業では、過去に遡って静止画から動画への移り変わりを解説し、動画の原点を探ります。また、テレビの仕組みや映像の圧縮技術についても学びます。</p>	
授業番号	I 3	
題 目	行動認識技術について	
担 当 者	勝間田 仁	
授業概要	<p>センサやカメラを使って人の行動を認識する技術について解説する。スマートフォンに搭載されている加速度センサより得られるデータを使い、人の行動認識の基礎について説明する。また、カメラを使った行動認識技術についても紹介する。我々の身边にあるセンサやカメラを使って、人を支援するための技術やサービスを創発するアイディアを話し合ってもらう。</p>	

授業番号	I 4	
題 目	学習分析による勉強の未来	
担 当 者	加藤 利康	
授 業 概 要	<p>大学では授業のオンラインコンテンツ化が進んだ結果、授業を速めて聴くというスタイルが学生に広がりつつあります。教育のデジタル化によって、教育・学習活動の効率化、VRなどを活用した新しい学習法の確立、学習活動のプロセスを記録・分析して学習改善、といったことが可能になり、それぞれ研究が進んでいます。</p> <p>この授業では、将来、学習の仕方がどう変わっていくのか、その一端を紐解いて解釈します。とくに学習活動のプロセスを分析する学習分析をテーマとして、実際に教育現場ではどのように活用されているのかを紹介します。</p>	
授業番号	I 5	
題 目	脳型情報処理入門	
担 当 者	吳本 堯	
授 業 概 要	<p>人工知能(AI)分野は1940年代から始め、1950年代に第1次ブームを起こし、その後1980年代に第2次ブームがあり、2000年代から第3次ブームへ突入してきました。近年、人間のプロ棋士を勝てるチェス・囲碁・将棋ソフトを始め、自動運転自動車、会話型ロボット、音楽・絵画創作AIなど身近な応用成果は、しばしば世界的に話題を呼んでいます。本授業は、AI研究の歴史、基礎理論から始め、最先端技術を紹介します。特にニューラルネットワーク(人工神経回路網)を中心とする脳型情報処理の原理と基本的知識を教授します。高校生レベルの数学教養があれば、本授業の内容が理解できると思われます。</p>	
授業番号	I 6	
題 目	「新しいメディア表現」ってどんなもの?	
担 当 者	小林 桂子	
授 業 概 要	<p>デジタル技術の発達にともない、芸術やデザインといった「表現」の領域でも、この技術を活用した作品が多く制作されています。この授業では、コンピュータメディアの黎明期に制作された作品から、近年発表されたものまでを紹介し、メディア表現という分野の歴史を作品から概観します。</p> <p>また、特徴的な技術を用いた作品や、技術のユニークな使い方をした作品、展示情報なども合わせて紹介します。</p>	

授業番号

I 7



題目

ヒトの情報を活用する技術

担当者

高津 洋貴

授業概要

ヒトを対象にした研究といえば、生理学や心理学、あるいは、医療系の分野をイメージする傾向がありますが、工学の分野でもヒトの研究を行なっています。それが、人間工学です。ヒトは、数え切れないほどの情報を体内に持っていますので、その情報を計測して、製品開発などに役立てています。皆さんには、e スポーツの FPS (First Person Shooter) をご存じでしょうか？その FPS の戦略やコーチングに人間工学の技術を活用した研究を進めています。

授業番号

I 8

題目

並列処理の話～メートル級からナノメートル級まで～

担当者

中村 一博

授業概要

コンピュータの世界では、時間のかかる計算や手間のかかるデータの加工、分析、探索、認識などの処理を効率良く行うために、様々な並列処理が行われています。コンピュータの世界に限らず、複数の処理ができるだけ同時にを行い、全ての処理の完了時刻を早めようとするのが、並列処理です。この授業では、皆さんの身の回りのメートル級の並列処理から、コンピュータ内部の $1/1000000000$ メートル級の並列処理まで、並列処理についてお話しします。

授業番号

I 9



題目

コンピュータグラフィックスの世界

担当者

松田 洋

授業概要

3Dコンピュータグラフィックス技術の応用分野として、物語のシナリオを記述するように表記するだけで、簡単に映像を制作できるメディアシステムを実演を交え分かりやすく解説します。また、最新の卒業研究のテーマも動画等を利用して紹介します。「コンピュータは、情報を見るだけの道具ではなく、情報やイメージを可視化する道具として活用できる」ということを実感してもらいます。

授業番号	I 10
題 目	コンピュータグラフィックスのしくみ
担当者	山地 秀美
授業概要	<p>映画やテレビゲームで馴染み深いコンピュータグラフィックス（CG）が、どのような仕組みで作られているのかをお話しします。</p> <p>CGのなかに作られる人や物がどのように動くのか、光はどのように表現されるのか、本物のように見せるための工夫や「ごまかし」のテクニックをわかり易く説明します。</p>